



Firepower Threat Defense サイト間 VPN

- [Firepower Threat Defense サイト間 VPN について \(1 ページ\)](#)
- [Firepower Threat Defense のサイト間 VPN の管理 \(3 ページ\)](#)
- [Firepower Threat Defense サイト間 VPN の設定 \(4 ページ\)](#)

Firepower Threat Defense サイト間 VPN について

Firepower Threat Defense サイト間 VPN では、次の機能がサポートされています。

- IPsec IKEv1 および IKEv2 プロトコルの両方をサポート。
- 証明書および自動または手動の事前共有認証キー。
- IPv4 および IPv6。内部、外部のすべての組み合わせをサポート。
- IPsec IKEv2 サイト間 VPN トポロジは、セキュリティ認証に準拠するための構成時の設定を提供します。
- スタティック インターフェイスおよびダイナミック インターフェイス。
- Firepower Management Center および Firepower Threat Defense 両方の HA 環境をサポート。
- トンネルがダウンした際の VPN アラート。
- Firepower Threat Defense 統合 CLI により利用可能なトンネル統計。

VPN トポロジ

新しいサイト間 VPN トポロジを作成するには、少なくとも、一意の名前を付け、トポロジタイプを指定し、IPsec IKEv1 または IKEv2 あるいはその両方に使用される IKE バージョンを選択する必要があります。また、認証方法を決定します。設定したら、Firepower Threat Defense デバイスにトポロジを展開します。Firepower Management Center は、Firepower Threat Defense デバイスのサイト間 VPN のみ設定します。

次の3つのタイプのトポロジから選択することができます。トポロジには、VPN トンネルが1つ以上含まれています。

- ポイントツーポイント（PTP）型の展開は、2つのエンドポイント間でVPNトンネルを確立します。
- ハブアンドスポーク型の展開は、VPNトンネルのグループを確立し、ハブエンドポイントをスポークノードのグループに接続します。
- フルメッシュ型の展開は、エンドポイントのセット内でVPNトンネルのグループを確立します。

IPsec と IKE

Firepower Management Center では、サイト間VPNは、VPNトポロジに割り当てられたIKEポリシーおよびIPsecプロポーザルに基づいて設定されます。ポリシーとプロポーザルはパラメータのセットであり、これらのパラメータによって、IPsecトンネル内のトラフィックでセキュリティを確保するために使用されるセキュリティプロトコルやアルゴリズムなど、サイト間VPNの特性が定義されます。VPNトポロジに割り当て可能な完全な設定イメージを定義するために、複数のポリシータイプが必要となる場合があります。

認証

VPN接続の認証には、トポロジ内で事前共有キー、または各デバイスでトラストポイントを設定します。事前共有キーにより、IKE認証フェーズで使用する秘密鍵を2つのピア間で共有できます。トラストポイントには、CAのID、CA固有のパラメータ、登録されている単一のID証明書とのアソシエーションが含まれています。

エクストラネット デバイス

各トポロジタイプには、Firepower Management Centerで管理しないデバイスである、エクストラネットデバイスが含まれる可能性があります。これには次が含まれます。

- Firepower Management Centerではサポートされているが、ユーザの部門が担当していないシスコデバイス。たとえば、社内の他の部門が管理するネットワーク内のスポークや、サービスプロバイダーやパートナーネットワークへの接続などです。
- シスコ製以外のデバイス。Firepower Management Centerを使用して、シスコ製以外のデバイスに対する設定を作成したり、展開したりすることはできません。

シスコ以外のデバイス、またはFirepower Management Centerで管理されていないシスコデバイスをVPNトポロジに「その他の」デバイスとして追加します。また、各リモートデバイスのIPアドレスも指定します。

Firepower Threat Defense サイト間 VPN ガイドラインと制約事項


- 現在のドメイン内ではないエンドポイント用のエクストラネットピアを使用するのみ、ドメイン間のVPN接続が可能です。
- VPNトポロジをドメイン間で移動させることはできません。
- 「範囲」オプションのあるネットワークオブジェクトは、VPNでは対応していません。

- Firepower Threat Defense VPN のバックアップは、Firepower Management バックアップを使用した場合のみ行われます。
- Firepower Threat Defense VPN では、現在、PDF のエクスポートおよびポリシーの比較には対応していません。
- Firepower Threat Defense VPN ではトンネル単位またはデバイス単位の編集オプションはありません。トポロジ全体のみ編集できます。
- クラスタ化環境では、Firepower Threat Defense VPN には対応していません。
- Firepower Management Center では、トンネルの状態はリアルタイムではなく、5 分間隔でアップロードされます。
- トンネルモードにのみ対応し、トランスポートモードには対応していません。IPsec トンネルモードは、新しい IP パケットのペイロードになる元の IP データグラム全体を暗号化します。トンネルモードは、ファイアウォールの背後にあるホストとの間で送受信されるトラフィックをファイアウォールが保護する場合に使用します。トンネルモードは、インターネットなどの非信頼ネットワークを介して接続されている 2 つのファイアウォール（またはその他のセキュリティゲートウェイ）間で通常の IPsec が実装される標準の方法です。

Firepower Threat Defense のサイト間 VPN の管理

スマート ライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
エクスポート コンプライアンス	該当なし	Firepower Threat Defense	リーフのみ	Admin

手順

- ステップ 1** VPN の証明書認証の場合は、トラストポイントを割り当てることでデバイスを準備する必要があります。詳細については、[Firepower Threat Defense 証明書ベースの認証](#) を参照してください。
- ステップ 2** [デバイス (Devices)] > [VPN] > [サイト間 (Site To Site)] を選択して、Firepower Threat Defense のサイト間 VPN の設定と展開を管理します。次のオプションから選択します。
- 追加：新しい VPN トポロジを作成するには、 [VPN の追加 (Add VPN)] > [Firepower Threat Defense デバイス (Firepower Threat Defense Device)] をクリックして、[Firepower Threat Defense サイト間 VPN の設定 \(4 ページ\)](#) の手順を実行します。
- (注) VPN トポロジは、リーフ ドメインでのみ作成できます。

- **編集**：既存の VPN トポロジの設定を変更するには、編集アイコン (✎) をクリックします。変更は設定とほとんど同じです。前述の手順を実行してください。
 - (注) トポロジタイプは、最初の保存後に編集することはできません。トポロジタイプを変更するには、トポロジを削除してから新しいものを作成します。
 - 2人のユーザが同じトポロジを同時に編集してはいけません。ただし、Web インターフェイスでは同時編集を防止していません。
- **削除**：VPN の展開を削除するには、削除アイコン (🗑) をクリックします。
- **VPN ステータスの表示**：このステータスは Firepower の VPN にのみ適用されます。現時点では、Firepower Threat Defense VPN についてはステータスが表示されません。Firepower Threat Defense VPN のステータスを確認するには、[Firepower Threat Defense VPN モニタリング](#) を参照してください。
- **展開**：[展開 (Deploy)] をクリックします ([設定変更の導入](#) を参照)。
 - (注) 一部の VPN 設定は、展開時にのみ検証されます。展開が成功したことを確認してください。

Firepower Threat Defense サイト間 VPN の設定

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
エクスポート コンプライアンス	該当なし	Firepower Threat Defense	リーフのみ	Admin

手順

- ステップ 1** [デバイス (Devices)] > [VPN] > [サイト間 (Site To Site)]。その後、[VPN の追加 (Add VPN)] > [Firepower Threat Defense デバイス (Firepower Threat Defense Device)]、またはリストされている VPN トポロジを編集します。を選択します。
- ステップ 2** 一意のトポロジ名を入力します。トポロジには、Firepower Threat Defense VPN であることとトポロジタイプを示す名前を付けることをお勧めします。
- ステップ 3** この VPN のネットワーク トポロジを選択します。
- ステップ 4** IKE ネゴシエーション中に使用する IKE バージョンとして、[IKEv1] または [IKEv2] のいずれかを選択します。

デフォルトは [IKEv2] です。必要に応じて、いずれかまたは両方のオプションを選択します。トポロジ内のデバイスが IKEv2 をサポートしない場合は、[IKEv1] を選択します。

ステップ 5 必須: トポロジの各ノードの追加アイコン (⊕) をクリックして、このVPN展開のためのエンドポイントを追加します。

[Firepower Threat Defense VPN エンドポイント オプション \(5 ページ\)](#) の説明に従って各エンドポイント フィールドを設定します。

- ポイントツーポイントの場合は、ノード A とノード B を設定します。
- ハブ アンド スポークの場合は、ハブ ノードとスポーク ノードを設定します。
- フル メッシュの場合は、複数のノードを設定します

ステップ 6 (任意) 次の説明に従って、この展開のデフォルト以外のIKEオプションを指定します [Firepower Threat Defense VPN IKE オプション \(7 ページ\)](#)

ステップ 7 (任意) 次の説明に従って、この展開のデフォルト以外のIPsecオプションを指定します [Firepower Threat Defense VPN IPsec オプション \(8 ページ\)](#)

ステップ 8 (任意) [Firepower Threat Defense のサイト間 VPN 展開の詳細オプション \(11 ページ\)](#) の説明に従って、この展開のデフォルト以外の詳細オプションを指定します。

ステップ 9 [保存 (Save)] をクリックします。
エンドポイントが構成に追加されます。

次のタスク

設定変更を展開します。 [設定変更の導入](#) を参照してください。



(注) 一部の VPN 設定は、展開時にのみ検証されます。展開が成功したことを確認してください。

Firepower Threat Defense VPN エンドポイント オプション

ナビゲーションパス

[デバイス (Devices)] > [VPN] > [サイト間 (Site To Site)]。その後、[VPN の追加 (Add VPN)] > [Firepower Threat Defense デバイス (Firepower Threat Defense Device)]、またはリストされている VPN トポロジを編集します。[エンドポイント (Endpoint)] タブを開きます。

フィールド

Device

展開するエンドポイント ノードを選択します。

- この Firepower Threat Defense で管理する Firepower Management Center デバイス。
- この Firepower Threat Defense で管理する Firepower Management Center ハイ アベイラビリティ コンテナ。

- [エクストラネット (Extranet)] デバイス。この Firepower Management Center の管理対象ではない任意のデバイス (シスコまたはサードパーティ)。

デバイス名 (Device Name)

エクストラネットデバイスの場合のみ、このデバイスの名前を入力します。シスコでは、管理対象ではないデバイスとして識別できるような名前を付けることを推奨します。

インターフェイス (Interface)

エンドポイントとして管理対象デバイスを選択した場合は、その管理対象デバイスのインターフェイスを選択します。

[IPアドレス (IP Address)]

- Firepower Management Center の管理対象ではないデバイスを選択した場合は、エンドポイントの IP アドレスを指定します。
- エンドポイントとして管理対象デバイスを選択した場合は、ドロップダウンリストから 1 つの IPv4 アドレスまたは複数の IPv6 アドレスを選択します (これらはすでにこの管理対象デバイスのこのインターフェイスに割り当てられているアドレスです)。
- トポロジ内のすべてのエンドポイントは、同じ IP アドレッシング方式でなければなりません。IPv4 トンネルは IPv6 トラフィックを伝送でき、逆もまた同様です。保護ネットワークでは、トンネルするトラフィックで使用するアドレッシング方式が定義されます。
- 管理対象デバイスがハイ アベイラビリティ コンテナである場合は、インターフェイスのリストから選択します。

この IP はプライベートです (This IP is Private)

エンドポイントが、ネットワーク アドレス変換 (NAT) を備えたファイアウォールの背後に配置されている場合は、このチェックボックスをオンにします。

パブリック IP アドレス (Public IP address)

[この IP はプライベートです (This IP is Private)] チェックボックスがオンの場合は、ファイアウォールのパブリック IP アドレスを指定します。エンドポイントがレスポンドの場合は、この値を指定します。

接続タイプ (Connection Type)

許可されるネゴシエーションを、bidirectional、answer-only、または originate-only として指定します。接続タイプのサポートされる組み合わせは次のとおりです。

表 1: 接続タイプのサポートされる組み合わせ

リモート ノード	中央 ノード
Originate-Only	Answer-Only
Bi-Directional	Answer-Only
Bi-Directional	Bi-Directional

証明書マップ

事前構成された証明書マップオブジェクトを選択するか、受信したクライアント証明書に必要な情報が VPN 接続に有効であることを定義する証明書マップ オブジェクトを追加します。詳細については、[Firepower Threat Defense 証明書のマップオブジェクトについて](#)を参照してください。

保護されたネットワーク (Protected Networks)

この VPN エンドポイントによって保護されたネットワークのリストを定義します。追加アイコン (+) をクリックして、使用可能なネットワークオブジェクトから選択するか、ネットワーク オブジェクト インラインに追加します。[ネットワーク オブジェクトの作成](#)を参照してください。アクセス コントロール リストがここで選択されたものから生成されます。

VPN エンドポイントは同じ IP アドレスを持つことはできません。また、VPN エンドポイントペアの保護されたネットワークは重複することはできません。エンドポイントについて保護されたネットワークのリストに 1 つ以上の IPv4 または IPv6 エントリが含まれている場合、他のエンドポイントの保護されたネットワークは、同じタイプ (つまり、IPv4 または IPv6) のエントリを少なくとも 1 つ持っていることが必要です。このようなエントリを持っていない場合、他のエンドポイントの IP アドレスが同じタイプであること、および保護されたネットワーク内でエントリが重複しないことが必要です。(IPv4 については /32 CIDR アドレスを使用し、IPv6 については /128 CIDR アドレス ブロックを使用します)。これらの両方のチェックに失敗すると、エンドポイントのペアは機能しません。

Firepower Threat Defense VPN IKE オプション

このトポロジに選択した IKE のバージョンの場合は、[IKEv1/IKEv2 設定 (IKEv1/IKEv2 Settings)] を指定します。



(注) このダイアログの設定は、トポロジ全体、すべてのトンネル、すべての管理対象デバイスに適用されます。

ナビゲーションパス

[デバイス (Devices)] > [VPN] > [サイト間 (Site To Site)]。その後、[VPN の追加 (Add VPN)] > [Firepower Threat Defense デバイス (Firepower Threat Defense Device)]、またはリストされている VPN トポロジを編集します。[IKE] タブを開きます。

フィールド

ポリシー

事前定義済みの IKEv1 または IKEv2 ポリシー オブジェクトを選択するか、または使用する新しいポリシー オブジェクトを作成します。詳細の参照先: [Firepower Threat Defense IKE ポリシー](#)

認証タイプ (Authentication Type)



(注) IKEv1 をサポートする VPN トポロジでは、選択した IKEv1 ポリシー オブジェクトで指定した [認証方式 (Authentication Method)] が、IKEv1 の [認証タイプ (Authentication Type)] 設定のデフォルトになります。これらの値は一致する必要があります。一致しないと設定がエラーになります。

- [事前共有自動キー (Pre-shared Automatic Key)] : 管理センターが、この VPN に使用される事前共有キーを自動的に定義します。[事前共有キー長 (Pre-shared Key Length)] を指定します。キーの文字数は 1 ~ 27 文字です。
- [事前共有手動キー (Pre-shared Manual Key)] : この VPN に使用される事前共有キーを手動で割り当てます。[キー (Key)] を指定して、[キーの確認 (Confirm Key)] に再入力して確認します。

IKEv2 に対してこのオプションを選択すると、[16 進数ベースの事前共有キーのみを適用する (Enforce hex-based pre-shared key only)] チェックボックスが表示されるので、必要に応じてオンにします。適用する場合は、キーの有効な 16 数値を、数字 0 ~ 9 または A ~ F を使用して、2 ~ 256 文字の偶数で入力する必要があります。

- [証明書 (Certificate)] : VPN 接続の認証方法として証明書を使用する場合、ピアは PKI インフラストラクチャ内の CA サーバからデジタル証明書を取得し、相互に認証するためにトレードします。

[証明書 (Certificate)] フィールドで、事前設定された PKI 登録オブジェクトを選択します。この登録オブジェクトは、管理対象デバイス上で同じ名前のトラストポイントを生成するために使用されます。トラストポイントは、PKI 登録オブジェクトがそのデバイスに関連付けられている場合に作成されます。

オプションの説明の詳細については、[使用する認証方式の決定](#)を参照してください。

Firepower Threat Defense VPN IPsec オプション



(注) このダイアログの設定は、トポロジ全体、すべてのトンネル、すべての管理対象デバイスに適用されます。

クリプト マップ タイプ (Crypto-Map Type)

クリプトマップには、IPsec Security Association (SA; セキュリティ アソシエーション) を設定するために必要なすべてのコンポーネントが組み合わされています。2つのピアが SA を確立しようとする場合は、それぞれに少なくとも 1つの互換クリプトマップ エントリが必要です。クリプトマップ エントリに定義されたプロポーザルは、そのクリプトマップの IPsec ルールによって指定されたデータフローを保護するための IPsec セキュリティ

ネゴシエーションで使用されます。この展開のクリプトマップにスタティックまたはダイナミックを選択します。

- [スタティック (Static)]: スタティック暗号マップは、ポイントツーポイントまたは完全メッシュ VPN トポロジで使用します。
- [ダイナミック (Dynamic)]: 実質的に、ダイナミック暗号マップによって、すべてのパラメータが設定されていない暗号マップエントリが作成されます。設定されていないパラメータは、IPsec ネゴシエーションの結果として、リモートピアの要件に合うようにあとで動的に設定されます。

ダイナミッククリプトマップポリシーは、ハブアンドスポークVPN設定にのみ適用されます。ポイントツーポイントまたはフルメッシュVPNトポロジでは、スタティッククリプトマップポリシーのみを適用できます。2つのデバイスを使用してハブアンドスポークトポロジを作成することで、ポイントツーポイントトポロジでダイナミッククリプトマップの使用をエミュレートします。スポークのダイナミックIPアドレスを指定し、このトポロジでダイナミッククリプトマップを有効にします。

IKEv2 モード (IKEv2 Mode)

IPsec IKEv2 の場合のみ、カプセル化モードはトンネルに ESP 暗号化と認証を適用するために指定します。これにより、ESP が適用されるオリジナルの IP パケットの部分が決定されます。

- [トンネルモード (Tunnel mode)]: (デフォルト) カプセル化モードがトンネルモードに設定されます。トンネルモードでは、ESP 暗号化と認証が元の IP パケット全体 (IP ヘッダーとデータ) に適用されるため、最終的な送信元アドレスと宛先アドレスが非表示になり、新しい IP パケットでペイロードになります。

トンネルモードの大きな利点は、エンドシステムを変更しなくても IPsec を利用できるということです。このモードでは、ルータなどのネットワークデバイスが IPsec のプロキシとして動作できます。つまり、ルータがホストに代わって暗号化を行います。送信元ルータがパケットを暗号化し、IPsec トンネルを使用して転送します。宛先ルータは元の IP データグラムを復号化し、宛先システムに転送します。また、トラフィック分析から保護することもできます。トンネルモードを使用すると、攻撃者にはトンネルのエンドポイントしかわからず、トンネリングされたパケットの本来の送信元と宛先はわかりません (これらがトンネルのエンドポイントと同じ場合でも同様)。


- [転送優先 (Transport preferred)]: ピアがサポートしていない場合、カプセル化モードは、トンネルモードにフォールバックするオプション付きの転送モードに設定されます。転送モードでは IP ペイロードだけが暗号化され、元の IP ヘッダーはそのまま使用されます。したがって、管理者は、VPN インターフェイスの IP アドレスと一致する保護されたネットワークを選択する必要があります。

このモードには、各パケットに数バイトしか追加されず、パブリックネットワーク上のデバイスに、パケットの最終的な送信元と宛先を認識できるという利点があります。転送モードでは、中間ネットワークでの特別な処理 (たとえば QoS) を、IP ヘッ

ダーの情報に基づいて実行できるようになります。ただし、レイヤ4ヘッダーが暗号化されるため、パケットの検査が制限されます。

- [転送必須 (Transport required)]: カプセル化モードは転送モードのみに設定され、トンネルモードにフォールバックすることはできません。転送モードをサポートしていない1つのエンドポイントがあるせいで、エンドポイントが転送モードを正常にネゴシエートできない場合、VPN 接続は行われません。

プロポーザル (Proposals)

選択した IKEv1 または IKEv2 メソッドのプロポーザルを指定するには、 をクリックします。利用可能な [IKEv1 IPsec プロポーザル (IKEv1 IPsec Proposals)] または [IKEv2 IPsec プロポーザル (IKEv2 IPsec Proposals)] オブジェクトから選択するか、または新しいプロポーザルを作成して選択します。詳細については、「[IKEv1 IPsec プロポーザル オブジェクトの設定](#)」および「[IKEv2 IPsec プロポーザル オブジェクトの設定](#)」を参照してください。

セキュリティ アソシエーション (SA) の強度適用の有効化 (Enable Security Association (SA) Strength Enforcement)

このオプションを有効にすると、子 IPsec SA で使用される暗号化アルゴリズムが、親 IKE SA よりも強くなることはありません (キー内のビット数の観点から)。

リバース ルート インジェクションを有効にする (Enable Reverse Route Injection)

リバース ルート インジェクション (RRI) により、スタティック ルートは、リモート トンネル エンドポイントで保護されているネットワークとホストのルーティング プロセスに自動的に挿入されます。

Perfect Forward Secrecy の有効化 (Enable Perfect Forward Secrecy)

暗号化された交換ごとに一意のセッション キーを生成および使用するために、Perfect Forward Secrecy (PFS) を使用するかどうかを指定します。固有のセッション キーを使用することで、後続の復号から交換が保護されます。また、交換全体が記録されていて、攻撃者がエンドポイント デバイスで使用されている事前共有キーや秘密キーを入手している場合であっても保護されます。このオプションを選択する場合は、[係数グループ (Modulus Group)] リストで、PFS セッション キーの生成時に使用する Diffie-Hellman キー導出アルゴリズムも選択します。

係数グループ (Modulus Group)

2つの IPsec ピア間の共有秘密キーを互いに送信することなく取得するために使用する Diffie-Hellman グループ。係数が大きいほどセキュリティが強化されますが、処理時間が長くなります。2つのピアに、一致する係数グループが設定されている必要があります。オプションの説明の詳細については、[使用する Diffie-Hellman 係数グループの決定](#)を参照してください。

ライフタイム(秒) (Lifetime (seconds))

セキュリティ アソシエーションが期限切れになる前に存続できる秒数。デフォルトは 28,800 秒です。

ライフタイム (KB) (Lifetime (kbytes))

特定のセキュリティ アソシエーションが期限切れになる前にそのセキュリティ アソシエーションを使用して IPsec ピア間を通過できるトラフィック量 (KB 単位)。デフォルトは 4,608,000 KB です。無限のデータを指定することはできません。

ESPv3 設定 (ESPv3 Settings)

着信 ICMP のエラーメッセージを検証 (Validate incoming ICMP error messages)

IPsec トンネルを介して受信され、プライベート ネットワーク上の内部ホストが宛先の ICMP エラーメッセージを検証するかどうかを選択します。

「フラグメント禁止」ポリシーを有効にする (Enable 'Do Not Fragment' Policy)

IP ヘッダーに Do-Not-Fragment (DF) ビットセットを持つ大きなパケットを IPsec サブシステムがどのように処理するかを定義します。

ポリシー

- [DF ビットのコピー (Copy DF bit)] : DF ビットを維持します。
- [DF ビットのクリア (Clear DF bit)] : DF ビットを無視します。
- [DF ビットの設定 (Set DF bit)] : DF ビットを設定して使用します。

トラフィック フロー機密保持 (TFC) パケットを有効にする (Enable Traffic Flow Confidentiality (TFC) Packets)

トンネルを通過するトラフィック プロファイルをマスクするダミーの TFC パケットを有効にします。[バースト (Burst)]、[ペイロードサイズ (Payload Size)]、および [タイムアウト (Timeout)]パラメータを使用して、指定した SA で不定期にランダムな長さのパケットを生成します。

Firepower Threat Defense のサイト間 VPN 展開の詳細オプション

ここでは、S2S VPN の展開で指定できる詳細オプションについて説明します。それらの設定は、トポロジ全体、すべてのトンネル、およびすべての管理対象デバイスに適用されます。

Firepower Threat Defense VPN の IKE 詳細オプション

[詳細設定 (Advanced)] > [IKE] > [ISAKAMP 設定 (ISAKAMP Settings)]

IKE キープアライブ (IKE Keepalive)

IKE キープアライブを有効または無効にします。または、[永続的に有効にする (EnableInfinite)] に設定して、デバイスがキープアライブ モニタリングを開始することがないように指定します。

しきい値 (Threshold)

IKE キープアライブの信頼間隔を指定します。これは、キープアライブ モニタリングを開始するまでにピアに許可されるアイドル時間 (秒) です。最小値およびデフォルトは 10 秒で、最大値は 3600 秒です。

再試行間隔 (Retry Interval)

IKE キープアライブの再試行から再試行までの待機秒数を指定します。デフォルトは 2 秒で、最大値は 10 秒です。

ピアに送信される ID: (Identity Sent to Peers:)

IKE ネゴシエーションでピアが自身の識別に使用する ID を選択します。

- autoOrDN (デフォルト) : 接続タイプによって IKE ネゴシエーションを判別します。事前共有キーの IP アドレスまたは証明書認証の証明書 DN (未サポート) を使用します。
- ipAddress : ISAKMP 識別情報を交換するホストの IP アドレスを使用します。
- ホスト名 (Hostname) : ISAKMP 識別情報を交換するホストの完全修飾ドメイン名を使用します。この名前は、ホスト名とドメイン名で構成されます。

アグレッシブ モードの有効化 (Enable Aggressive Mode)

ハブアンドスポーク VPN トポロジでのみ使用できます。IP アドレスが不明であり、デバイスで DNS 解決を使用できない可能性がある場合は、このネゴシエーション方式を選択してキー情報を交換します。ホスト名およびドメイン名に基づいてネゴシエーションが行われます。

[詳細設定 (Advanced)]>[IKE]>[IVEv2 セキュリティ アソシエーション (SA) 設定 (IVEv2 Security Association (SA) Settings)]

IKE v2 について、オープン SA の数を制限するさらに詳細なセッション制御を使用することができます。デフォルトでは、SA の数は制限されません。

クッキー チャレンジ (Cookie Challenge)

SA 開始パケットの応答としてピアデバイスにクッキー チャレンジを送信するかどうかを指定します。これは、サービス妨害 (DoS) 攻撃の防止に役立つことがあります。デフォルトでは、使用可能な SA の 50% がネゴシエーション中である場合にクッキー チャレンジを使用します。次のオプションのいずれか 1 つを選択します。

- カスタム : (Custom :)
- しない (Never) (デフォルト)
- 常に (Always)

着信クッキー チャレンジのしきい値 (Threshold to Challenge Incoming Cookies)

許可されるネゴシエーション中の SA の総数の割合。この設定を指定すると、以降の SA ネゴシエーションに対してクッキー チャレンジがトリガーされます。範囲は 0 ~ 100% です。

許可されるネゴシエーション中の SA の数 (Number of SAs Allowed in Negotiation)

一時点でネゴシエーション中にできる SA の最大数を制限します。クッキー チャレンジと共に使用する場合は、有効なクロスチェックが実行されるようにするため、クッキー チャレンジのしきい値をこの制限値よりも低くしてください。

許可される SA の最大数 (Maximum number of SAs Allowed)

許可される IKEv2 接続の数を制限します。デフォルトでは無制限です。

トンネルの切断時の通知を有効にする (Enable Notification on Tunnel Disconnect)

管理者は、SA で受信された着信パケットがその SA のトラフィック セレクタと一致しない場合のピアへの IKE 通知の送信を有効または無効にすることができます。デフォルトでは、[この通知を送信する (Sending this notification)]は無効になっています。

Firepower Threat Defense VPN の IPsec 詳細オプション

[詳細設定 (Advanced)] > [IPsec] > [IPsec 設定 (IPsec Settings)]

暗号化の前にフラグメンテーションを有効にする (Enable Fragmentation Before Encryption)
このオプションは、IP フラグメンテーションをサポートしていない NAT デバイス間をトラフィックが通過できるようにします。このオプションを使用しても、IP フラグメンテーションをサポートしていない NAT デバイスの動作が妨げられることはありません。

パスの最大伝送ユニットのエージング (Path Maximum Transmission Unit Aging)

オンにすると、PMTU (パス最大伝送ユニット) のエージング、つまり、SA (セキュリティアソシエーション) の PMTU リセットまでの時間が有効になります。

値のリセット間隔 (Value Reset Interval)

SA (セキュリティアソシエーション) の PMTU 値が元の値にリセットされるまでの時間 (分) を入力します。有効範囲は 10 ~ 30 分です。デフォルトは無制限です。

Firepower Threat Defense のサイト間 VPN トンネルの詳細オプション

ナビゲーションパス

[デバイス (Devices)] > [VPN] > [サイト間 (Site To Site)]、その後 [VPN の追加 (Add VPN)] > [Firepower Threat Defense デバイス (Firepower Threat Defense Device)] を選択するか、またはリストされている VPN トポロジを編集します。[詳細設定 (Advanced)] タブを開き、ナビゲーション ウィンドウで [トンネル (Tunnel)] を選択します。

トンネルオプション

ハブアンドスポークおよびフルメッシュ トポロジでのみ使用できます。このセクションはポイントツーポイント構成では表示されません。

- [ハブを介したスポークツースポーク接続を有効にする (Enable Spoke to Spoke Connectivity through Hub)] : デフォルトでは無効になっています。このフィールドを選択すると、スポークの両端にあるデバイスは、ハブ ノードを介して他のデバイスへの接続を拡張できます。

NAT 設定

- [キープアライブ メッセージ トラバーサル (Keepalive Messages Traversal)] : NAT キープアライブ メッセージ トラバーサルを有効にするかどうかを指定します。VPN 接続ハブとスポークとの間にデバイス (中間デバイス) が配置されている場合、キープアライブメッセージを転送するために NAT トラバーサル キープアライブを使用します。このデバイスでは、IPsec フローで NAT を実行します。

このオプションを選択する場合は、セッションがアクティブであることを示すためにスポークと中間デバイス間でキープアライブ信号が送信される間隔 (秒) を設定します。値は、5 ~ 3600 秒の範囲で指定します。デフォルトは 20 秒です。

証明書マップの設定

- [エンドポイントで設定された証明書マップを使用してトンネルを判別する (Use the certificate map configured in the Endpoints to determine the tunnel)] : このオプションを有効にする (オンにする) と、受信した証明書の内容をエンドポイント ノードに設定されている証明書マップ オブジェクトと照合することによってトンネルが判別されます。
- [証明書の OU フィールドを使用してトンネルを判別する (Use the certificate OU field to determine the tunnel)] : 選択した場合、設定されたマッピング (上記のオプション) に基づいてノードが判別されない場合は、受信した証明書のサブジェクト識別名 (DN) の組織単位 (OU) の値を使用してトンネルを判別することを示します。
- [IKE ID を使用してトンネルを判別する (Use the IKE identity to determine the tunnel)] : 選択した場合、OU (上記のオプション) と一致するルールまたは OU から取得されたルールに基づいてノードが判別されない場合は、証明書ベースの IKE セッションが、フェーズ 1 IKE ID の内容に基づいてトンネルにマッピングされることを示します。
- [ピア IP アドレスを使用してトンネルを判別する (Use the peer IP address to determine the tunnel)] : 選択した場合、トンネルが OU または IKE ID 方式と一致するルールまたはその方式から取得されたルールに基づいて判別されない場合は、確立されたピア IP アドレスを使用することを示します。